

## 連合軍向け参加要項(総合案内と合わせてご覧下さい)

20180122

- 国連軍・NATO 軍・西欧系諸国の正規軍を”連合軍”とします。
  - 想定する軍隊の装具・銃器を模した物を基本装備とします。  
レプリカ装具はOKですが、あまりに掛け離れた代用装具や、実物が存在しない  
又は設定された想定地域で存在しえない銃器を模したトイガンの使用は禁止です。
  - ヘルメットおよびボディアーマーが必須装備になります。この2点が「連合軍マーカー」です。
- 当日現地でシチュエーションに沿わないと判断された場合は状況に参加出来ない  
場合があります。その際はレンタル装備(有料)にて民族戦線側で参加可能です。

## 部隊ごとのドレスコード

装備・装具の是非は運営委員会スタッフの判断を優先します。  
「この装備での参加は大丈夫かな」という方は、事前にお問い合わせ下さい。

階級章を戦闘服などに付ける場合は”軍曹”以下にして下さい。”曹長”以上の階級章を付ける場合は事前にご申告下さい。高位階級を付ける代わりに、小隊長(命令の中継等)をお願いする場合がございます。

設定年代が広がってきましたので、申込時に「20xx年ごろの〇〇部隊」と申告していただくと、編成時に分隊単位の装備の整合性が取りやすくなります。

### ●部隊編成

大きく「一般部隊」と「特殊部隊」に別れ、それぞれで指揮官および指揮系統が違います。  
(一般と特殊の対立や、部隊ごとの直接連絡が取れない状況なども再現するためです)  
無線は特定小電力無線局(貸出機有)を利用し、勢力・部隊ごとにチャンネルを割り当てます。参加者の自由にチャンネルを開く事は出来ません。

#### ・正規軍一般兵

各国正規軍一般兵装備を基本とします。ヘルメット、ボディアーマーが必須装備となります。キャップやベレーを被る場合でも、必ずヘルメットを携行して下さい。

#### ・特殊部隊

各国特殊部隊装備になります。一般兵装備から逸脱したものが多いため、必ず申し込み時に詳しい装備内容を申告して下さい。  
スタイルアップとしてキャップなどを装着する事も可能ですが、連合軍所属である以上ヘルメットとボディアーマーは必至です。(携行のみでも可)

## ・自衛隊

復興支援活動のために現地入りした自衛隊員という設定です。ヘルメットとボディアーマーが必須です。部隊編成としては一般兵卒での参加になります。

武装は許可していますが、対人射撃は基本的に許可されません。シチュエーション上も、過去許可された事は稀です。円匙(スコップ)があると便利です。

●以下のグループは必ず装備に関してお問い合わせ下さい。

特殊な立ち位置の場合が多いので、一般参加者向けのシチュエーションに参加出来ない場合があります。過去に MMM に参加経験のある方向けです。

## ・民間軍事会社(欧米 PMC)

PMC はスタッフを中心とした雑用係となっております。戦闘状況に参加出来ない場合が多いです。ヘルメット・ボディアーマーが必須です。連合軍総指揮官直轄の「お使い部隊」ですので、比較的扱いが「荒い」です。

## ・ポリス(アフガニスタン警察およびイラク警察)

バトラン国(舞台となる仮想国家)への文民警察官として、ANP(アフガン警察)および IPS(イラク警察) 装備での参加が可能です。こちらもスタッフを中心とした雑用係になります。警ら装備(ヘルメット・アーマー無し)での参加が可能です。

## ・親連合軍の現地人

ポリスの下請け民兵や、連合軍部隊と同行する通訳などです。装備としては現地人衣装+軽装備といった感じです。

状況によって組み込まれる部隊が変わります。シチュエーションによっては民族戦線側に組み込まれる場合があります。

その他のお問い合わせは遠慮なくお問い合わせ下さい。

手持ちの装備をどうアレンジすれば参加出来るか、などのご質問も歓迎です。

MMM 民族戦線装備・明日香縫製 ([kalash@militia.jp](mailto:kalash@militia.jp))

MMM 連合軍装備・Heavy 少佐 ([heavy@militia.jp](mailto:heavy@militia.jp))